

# 平成30年度全国学力・学習状況調査に係る 結果の考察と今後の指針

高松市教育委員会

## 1 全国学力・学習状況調査の目的

- (1) 文部科学省は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために、本調査を実施しました。
- (2) 高松市教育委員会は、本市の教育の結果を把握し、指導の改善に向けて有効に活用するために、本調査に参加しました。ただし、本調査により測定できる学力は、特定の一部であり、これ以外にも様々な資質や能力が、学校教育によって育まれていると考えています。

## 2 結果の公表と活用についての方針

- (1) 高松市教育委員会では、調査結果を分析し、本市の児童生徒の学力及び学習状況については、学校の序列化や過度の競争を招く恐れがあり、この調査の目的にそぐわないため、数値による結果の公表は行わず、全体的な傾向を文章でまとめ、公表します。本市の各小・中学校も同様です。
- (2) 高松市教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していきます。

## 3 調査内容

### (1) 教科に関する調査

小学校：国語A（12問）、国語B（8問）、算数A（14問）、算数B（10問）  
理 科（16問）

中学校：国語A（32問）、国語B（9問）、数学A（36問）、数学B（14問）  
理 科（27問）

### ア A問題（知識）について

身に付けておかなければ、以後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心に出題しています。

## イ B問題（活用）について

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心に出題しています。

### (2) 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することについて、児童生徒が、いくつかの選択肢の中から選んで答えます。小学校と中学校の質問内容は、ほぼ同じです。

## 4 調査を実施した児童生徒数（高松市立小・中学校）

	国 語		算 数・数 学		理 科	質問紙調査
	A（知識）	B（活用）	A（知識）	B（活用）		
小学校	3,704人	3,704人	3,704人	3,705人	3,707人	3,703人
中学校	3,523人	3,527人	3,531人	3,530人	3,526人	3,522人

\* 調査によって人数の差があるのは、体調不良等で受けられなかった児童生徒がいるためです。

## 5 教科に関する調査結果の概況

### 【小学校】

国語A・B、算数A・B、理科の平均正答率は、全て全国の平均正答率と同等もしくは上回る結果でした。国語・算数ともにB問題の方が、全国の平均正答率との差が大きくなっています。

無解答率は、ほとんどの問題で全国の無解答率より低くなっています。

### 【中学校】

国語A・B、数学A・B、理科の平均正答率は、全て全国の平均正答率と同等もしくは上回る結果でした。国語・数学ともにA問題の方が、全国の平均正答率との差が大きくなっています。

無解答率は、全体の半数を少し超える問題で全国の無解答率より低くなりましたが、それらの問題における全国との差は大きくありません。

\* 国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科ごとの平均正答率とは、全問題数に対する平均正答数の割合で、高い数値ほど良好といえます。

\* 無解答率とは、調査実施児童生徒数に対する各問題の解答欄に何も書かなかった児童生徒数の割合で、低い数値ほど解答意欲が高いものと判断しています。